

産官学連携プロジェクトによる 学生のコミュニケーション能力の養成 -霧島ガストロノミーの動画制作の事例-

渋沢良太

鹿児島県霧島市国分中央1-10-2 第一工業大学 工学部 情報電子システム工学科

E-Mail: r-shibusawa@daiichi-koudai.ac.jp

Fostering Students' Communication Skills through Industry-Government-Academia Collaboration Project - A Case Study of Kirishima Gastronomy -

Ryota SHIBUSAWA

Department of Informatics and Electronics ,1-10-2, KokubuChuo, Kirishima, Kagoshima, 899-4395, Japan

E-Mail: r-shibusawa@daiichi-koudai.ac.jp

Abstract: Many Japanese companies consider the communication skills of students to be important when hiring new graduates. The communication skills that companies consider important are (1) the ability to correctly understand what others are saying and thinking, and (2) the ability to communicate one's own ideas to others in an easy-to-understand, correct, and sometimes attractive way. However, most of the lectures at universities are about academic content, and there are few lectures with the main purpose of cultivating these abilities. Even if there are such lectures, they generally attempt to cultivate those skills through communication only with people on campus. In this paper, we report on a case study in which we attempted to cultivate these abilities in our students through an industry-academia-government collaboration project involving businesses in Kirishima City, Kirishima City Hall, and Dai-ichi Institute of Technology.

Key words: Project-Based Learning, Developing communication skills, Industry-Academia-Government Collaboration

1. はじめに

日本経済団体連合会の調査によると、日本国内において新卒採用を実施している企業が、新卒学生を採用する際に重視する能力は、“コミュニケーション能力”が16年連続で第1位になっている[1]。コミュニケーション能力の定義は曖昧であり、様々な能力の概念が含まれている。一般的に、コミュニケーション能力として多くの学生が思い浮かべる能力は、誰とでも臆せず会話できる能力や、明るく人と接することができる能力ではないだろうか。確かにそれらも重要であることは否定しないが、企業がビジネスを行う上で重要視するコミュニケーション能力とはそれらの能力よりも、表1に示す能力ではないだろうか。上司や同僚とともに仕事を進める際、顧客にプレゼンテーションする際、顧客とコミュニケーションする際、顧客のニーズを理解する際等、ビジネスの重要な局面で、表1に示す能力が求められる。

しかし大学の講義のほとんどは、学問の内容についての講義であり、表1の能力の養成を主な目的とした講義は少ない。また、そのような講義があったとしても、学内の人間のみとのコミュニケーションを通して、表1の能力の養成を試みることが一般的である。本論文では、霧島市内の事業者、霧島市役所、第一工業大学が連携した産官学連携プロジェクトを通して、本学学生の表1に示すコミュニケーション能力の養成を試みた事例を報告する。

表1 企業が重要視と思われるコミュニケーション能力

No.	能力の内容
1	他者の言っていること、他者の考えを正しく理解できる能力
2	自らの考えを他者に分かりやすく、正しく、時には魅力あるように伝えられる能力

2. 霧島ガストロノミー

「食」にまつわる様々な分野を融合させながら地域の食文化を生かす「ガストロノミー」の理念に沿って長年培われてきた「食」の伝統を尊重しながら地域経済の活性化や交流人口の拡大を図るため、霧島市内の産学官組織が連携して霧島ガストロノミー推進協議会が2017年に設立された[2].

同組織は、これまでに地域ブランド認定制度(ゲンセン霧島)、霧島産品マッチング、ご当地料理の開発・展開等を実施してきた。JAあいら、本学、霧島市が共同開発した“霧島さん家のグラノーラ”も、2018年度にゲンセン霧島に認定されている。そして2020年度は、霧島市内の事業者が集まり、Facebook, Instagramを使って霧島ガストロノミーの効果的な情報発信の勉強会、および情報発信の実践を行った[3],[4]。その活動の一環として、霧島ガストロノミーの動画配信をYouTubeで行うことについて本学に協力依頼があり、これを本学の学生が実施した。

3. 動画制作・配信プロジェクト

本プロジェクトに参加した本学の学生は、1年生2名、3年生6名、4年生2名の計10名であり、いずれも情報電子システム工学科の学生であった。筆者が同学科の1~4年の学生に声を掛け、興味、関心を持ったものは全員プロジェクトに参加させた。表2に本プロジェクトの進行を示す。

3.1. 霧島ガストロノミーに関する動画制作

本プロジェクトには、上記の10名の学生のうち、9名の学生が参加した。本プロジェクトは、2020年11月から2021年1月に渡って実施された。

まず、霧島ガストロノミーについて理解を深める勉強会が、霧島ガストロノミーを発足した方々、霧島市内で特色のある事業を行われている事業者の方々を講師として実施された。その後、動画プロモーションのプロの方(株式会社 Realize代表取締役の内田氏、PBOOKMARK代表取締役の松本氏)を講師として、魅力的な動画制作についての講義が実施された。また学生は3人1組でチームを作り、各チームで動画制作を勉強会の時間外で行い、勉強会で制作した動画を共有し、改善点について議論を行うことを何度か繰り返した。動画制作にあたり、作成する動画の企画、取材先の事業者への取材交渉、撮影、動画への編集は全て学生たちが行い、教員がそれらの作業に携わることはしないようにし、あくまで調整役として振る舞った。なお、学生たちは動画編集ソフトとしてVNビデオエディタ[8]

表2 プロジェクトの勉強会・進行の概要

No.	概要
1-1	霧島ガストロノミーの理解を深める勉強会を実施。
1-2	霧島市内の異なる事業者3名の方々が講師となり、各事業の内容、霧島の魅力について伺う勉強会を実施。
1-3	動画プロモーションのプロを特別講師として、魅力的な動画制作方法についての講義を実施。3人1組で計3チーム作り、チームごとにどのような動画を制作するか企画し、それぞれチームで空き時間に練習動画を制作。
1-4	各チームで制作した練習動画を共有し、それらの改善点を議論、動画制作のプロによる講義を実施。
1-5	各チームで制作した動画を共有し、それらの改善点を議論、動画制作のプロによる講義を実施。
1-6	3チームで計4本の動画を完成。霧島市内の事業者の方々の前での成果発表、意見交換
2-1	霧島茶のCM制作の企画、2本の動画制作(2名が参加)
2-2	霧島ガストロノミーセレクション2021で、霧島市内の事業者の方々、一般の方々の前での成果発表

表3 学生らが制作した動画の概要

No.	概要
1-1	地元の温泉水を使った美肌効果のあるラーメン。地元の事業者と交渉して取材し、ラーメンを作っている過程、出されたラーメンの見た目、味、健康効果についてまとめた。(1分26秒)
1-2	地元食材を使ったさつま汁の作り方。地元食材を扱う商店での食材購入から、さつま汁を作る過程、さつま汁の味についてまとめた。料理を自ら行って撮影した。(7分49秒)
1-3	地元食材を使った創作料理。地元の事業者と交渉して取材し、地元の食材を使った創作料理を作って頂くことを依頼し、黒酢チキン南蛮カレーの作り方、味についてまとめた。(1分29秒)
1-4	地元食材を使ったがね、炊き込みご飯、さつま汁の作り方。料理を自ら行って撮影した。(47秒)
2-1	ゲンセン霧島茶の美味しい淹れ方[6](1分)
2-2	ゲンセン霧島茶の味、風味などの魅力[7](36秒)

を使用した。そして、3チームで表3の1-1から1-4に示す計4本の動画、閲覧者の興味をひくサムネイル画像を完成させ、霧島ガストロノミー全体

の勉強会で霧島市内の事業者の方々の前で動画を発表し、意見交換を行った。

3.2. ゲンセン霧島茶のCM制作

本プロジェクトには、上記の10名の学生のうち、2名の学生が参加し、2021年1月から2月に渡って実施された。うち1名は、前節の動画制作プロジェクトにも参加していた。2週間というタイトなスケジュールで、霧島ガストロノミーが中心となって開発したゲンセン霧島茶の美味しい淹れ方を伝える動画[6]、味や風味などの魅力を伝える動画[7]の計2本の動画を制作した。これらの動画は、[6]、[7]に示すURLで閲覧可能であり、本プロジェクトを通して学生たちがどのような具体的に動画を制作できるようになったかについてはこちらを参照されたい。

そして、霧島市役所内で公開イベントとして実施された、霧島ガストロノミーセレクション2021にて、制作した2本の動画を一般の方々の前で発表した。その時の発表の内容は、[5]に示す

URLで閲覧可能である。同URLの動画では、3:21:43から当該の発表が開始される。

4. 学生へのインタビュー調査

本プロジェクトの終了後、学生たちにインタビュー調査を実施し、本プロジェクトに参加して得られたこと、感想を聴取した。その結果を表4に示す。

この結果から、本プロジェクトの参加によって、学生たちは動画の企画、撮影や編集のスキルはもちろん、人に魅力を伝えるコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力、自ら事業者の方と交渉して取材する能力等を向上させられていることを確認できる。また、霧島市の魅力の発見、自らの食生活の見直しなど、より良い大学生活、社会人生活を送るための基礎的で重要な気づきを得られていることが確認できる。

本プロジェクトを通して、学生は大学外の様々な年齢、職業の方々と思慮疎通を多く取ることができ、自らの考えを伝え、他者の考えを

表4 PBLに参加した学生の感想

No.	能力の内容
1	事業者の方にアポを取って取材を行い、自分たちで動画編集を行って、事業者、市役所の人々の前でプレゼンし、行動力を身につけられた。
2	産官学で連携し、地域社会をより良くする課題に取り組めた。
3	顧客(視聴者)に興味を持ってもらえるような動画の構成、編集スキルを修得できた。
4	動画を今まで作成したことがなかったが、今回をきっかけに動画編集の実際の操作方法を勉強するようになった。その結果テレビやYouTubeの動画などもどのような感じに演出しているかなどを意識して見るようになった。
5	大学で普段先生以外の方に会ったり、どこか行ってお話をいただくのは貴重な経験であり、霧島市に住んでいる方がどのような気持ちを持って仕事をされているかということを知ることが今までなかった。自分も霧島市に住んで3年くらいになるが意識したことはなく、話を聞いているうちに素晴らしい土地であることを知った。
6	動画を作ってくるように言われたときは結構ハードルが高く感じたが、チームで知恵を出しながらいい方法を考えているうちに徐々に完成に近づけることができた。
7	今回の霧島ガストロノミーに参加することによって得られたことは、出された課題をどのようにこなすかということにあるように思った。大学の課題はやることはあらかじめ決められていることが大半だと思うのでなにか一から考えて完成までさせるということは今までを見ていなかったと思う。
8	週ごとの勉強会というスタイルは受け入れやすく、長期間にはなるがちょっとずつ進めることであせらずに楽しくすることができた。
9	課外活動として就活の面接時に話しても恥ずかしくない大きな経験だと思うので積極的に使っていきたい。チームで課題解決する力を身に着けたということで話していきたいと思います。
10	ペルソナモデルが参考になった。写真のとり方が勉強になった。事業者、市役所など、社会人とコミュニケーションを取れた

理解する訓練を行えた。また、動画の視聴者のことを想像して、視聴者に伝えるべき魅力は何か、視聴者に魅力が伝わるようにするにはどうしたら良いかを考え抜き、動画制作を行った。この活動は、企業において、顧客が必要とする製品、サービスを企画し、企業内外の様々な人と意思疎通をしながらその製品、サービスを実現する過程とも類似している。従って本プロジェクトに参加した学生は、企業活動において必要となるコミュニケーション能力の基礎を訓練できたと言えるであろう。また、現在の経済社会において、動画等のSNSによる効果的なPRができることは、顧客獲得に関わる重要なスキルであり、そのスキルを修得できた本プロジェクトに参加した学生は、企業が欲しい人材であるだろう。

本プロジェクトでは産学官が連携し、実社会の問題を扱ったことで、学生は問題について真剣に考えて学習に取り組むモチベーションが生まれ、どの学生も積極的に学習できたと考えられる。本プロジェクトによる訓練方法は、コミュニケーションの訓練用の仮想的な問題設定を行い、それを使ってコミュニケーション能力を養成するよりも、遥かに高い効果が得られるであろう。

5. おわりに

本研究では、霧島ガストロノミーの動画制作プロジェクトを通して、産学連携で学生のコミュニケーション能力を養成に取り組んだ。そして、企業が求めるコミュニケーション能力に関して、学生の能力向上に一定の効果を確認することができた。

プロジェクトの実施にあたっては、産学官ともに時間や費用などのコストもかかるため、三者全員がそのコストを上回る利益を得られるようにプロジェクトを設計し、運用していくことが必要となる。学生たちに毎年度、継続的にこのようなプロジェクトに参加させられるような環境を構築していくことが今後の課題である。本研究、および筆者が参加した先行研究[10]の結果を踏まえると、表5に示すような題材が、産学連携あるいは産学連携のPBLの題材として適切であると考えている。

謝辞

本プロジェクトの企画、運営にあたって、霧島市役所観光推進課の方々、霧島市内の事業者の方々、講師として指導にあたってくださった株式会社Realize代表取締役の内田氏、株式会社PBOOKMARK代表取締役の松本氏、本学教員の

表5 産官学/産学連携プロジェクトの題材案

No.	内容
1	市内、県内のPR、観光促進(産官学連携)
2	市内、県内で社会問題になっていることの解決(産官学連携)
3	企業にとって数年、数十年先の利益に繋がりそうだが、企業内の活動としてはコストをかけ難い内容の研究開発(産学連携)
4	小規模商店・サービス事業者の業務支援(産学連携)

森園氏に多大なご協力を賜った。ここに深く感謝の意を表する。

参考文献

- [1] 一般社団法人 日本経済団体連合会, “2018年度新卒採用に関するアンケート調査結果”, <http://www.keidanren.or.jp/policy/2018/110.pdf>, (2021年6月11日参照)
- [2] 霧島ガストロノミー, <https://kirishima-gastronomy.com/>, (2021年6月11日参照)
- [3] ゲン&セン霧島, https://www.instagram.com/gen_sen_kirishima/, (2021年6月11日参照)
- [4] ゲンセン霧島～美味しい記憶を巡るまち～, <https://www.facebook.com/KirishimaGastronomy/>, (2021年6月11日参照)
- [5] 霧島ガストロノミー-セレクション2021, https://www.youtube.com/watch?v=0UqWdGK_rvA, (2021年6月11日参照)
- [6] ゲンセン霧島茶 ー美味しい淹れ方編ー, <https://www.youtube.com/watch?v=KJcWKDliScQ>, (2021年6月11日参照)
- [7] ゲンセン霧島茶 ーいただく編ー, <https://www.youtube.com/watch?v=Zba9EsiF9IY>, (2021年6月11日参照)
- [8] VN, <https://play.google.com/store/apps/details?id=com.frontrow.vlog&hl=ja&gl=US>, (2021年6月11日参照)
- [9] ゲンセン霧島茶, <https://kirishima-gastronomy.com/news/20201223/>, (2021年6月12日参照)
- [10] 鈴木直義, 堀口貴光, 渋谷良太, 簗持静香, 青山知靖, 湯瀬裕昭, “民産官学協働ソフトウェア開発による大学低学年教育の試み-ソフト・イノベーションの視点から-”, 情報処理学会シンポジウム論文集, Vol. 2006, No.8, pp.45-52, 2006年8月.